

あへとふる

48

跳ね上がり、こちらに視線を送るウサギ。風にそよぐ秋草。こうしたリーチの筆勢による生き生きとした動植物をはじめ、各所で描かれた風景画などで、「工芸の五月」の美術館は埋め尽くされます。

香港で生まれ、日本で幼少期を過ごした英国人バーナード・リーチ(1887-1979年)は、芸術による東と西の文化の融合を夢見て、92歳で亡くなるまでその生涯を芸術に捧げました。リーチは日本を訪れるたびに、民芸運動の創始者・柳宗悦や陶芸家・濱田庄司らとともに日本各地の窯場を訪ねて職人

たちとともに制作したり、意匠や制作

初公開の書簡、そしてリーチが影響を受けた世界各地の陶磁器も合わせご紹介いたします。とくに日本民藝館不出とされた英国スリッパウェアの逸品は見事です。装飾性豊かなリーチの初期の作品から、晩年の情趣あふれる作品まで、どうぞご覧ください。



《染焼駆兎文皿(部分)》1919年



《鉛釉筒描塔文皿(部分)》1934年



《鉄砂抜絵巡礼文皿》1960年

日本を愛し、日本人に愛された英国人。

指導をしたり。その足跡は、北海道から沖縄まで点となり線となって伸びています。それはここ、松本にも。忙しい執筆や講演活動の合間に、松本の民芸運動を支えた三代澤本寿や池田三四郎らの案内で、信州各地を巡り歩き、洋家具の工房で意匠の監修をしました。

リーチの至高の芸術への純粋な愛情、情熱、人柄は、多くの人々を魅了し、今もその記憶は各地で語り継がれています。

今回は、リーチの作品とともに日本



バーナード・リーチ 1953年 松本にて

Art Exhibition Guide

展覧会情報 武藤 美紀 (当館学芸員)

第13回 ポルカドット号 探検記

信州の中世史を散歩していると意外な人に巡り会うことがある。

和歌山興国寺の開山、法燈国師(心地覚心 1207-1298)は早くに中国に渡り、味噌、醤油をわが国に伝えたり、尺八を吹く虚無僧の祖としても知られる禅僧だが松本生まれの人だ。

鎌倉時代は日本史の大きな曲がり角で、この時代を生きる人々の心にも深刻な変化をもたらしたのではなかっただろうか。権力者が目まぐるしく変り天災が続く社会を生きる人々は切実に救済を求めたことだろう。いわゆる鎌倉新仏教を開いた法然、親鸞、日蓮、道元らがこうした人々の願いに応えたわけだが法燈国師もこうした宗教家の列に連なるひとりだった。踊り念仏の一遍もその影響を受けたのだそうだ。

法燈国師は偉大な旅人でもあった。海を越え

中世の旅人

松本市美術館館長 小川 稔



覚慧《無本(心地)覚心像》絹本着色 1315年 和歌山・興国寺

るのが命がけだった時代、南宋で禅を学んだがモンゴルが勢いを増し、国情は不安定だったはずだ。こうした宗教指導者たちは宗教的情熱と同時に、時代に対峙する冷徹な目の持ち主でもあった。高い精神性や懐の深さはこの肖像画(頂相)からも知ることができるのではないだろうか。禅は師資相承、師匠から弟子へ人間臭い教えの伝達を重んじたから、こうした肖像が多数つくられた。

日中文化交流の大事さを考え直す時期ではないかと思う。「和」は「唐」の存在がなければ成立しないことを先人たちはよく知っていた。鎌倉、室町時代の留学僧たちは先進的な中国文化の吸収に熱心に取り組み、未曾有の唐物(中国の高級文物)ブームを巻き起こすことになったが、両国文化交流の先駆者、法燈国師は故郷でもっと顕彰されてよいだろう。



草間彌生《命》

「亡くなったアーティストたちの作品を展示している間に、今生きているアーティストたちは死んでしまおう」(草間彌生自伝『無限の網』より)

この憂いから、草間彌生が「ニューヨーク近代美術館(MOMA)」の庭で裸の男女を率いてパフォーマンスを行ったのが1968年8月のことだ。庭に展示された物語作家たちの彫刻を巻き込んだもので、警備員に制止されるほどの過激な内容に評価は大きく分かれた。

MOMAでのパフォーマンスから約半世紀を経た今、MOMAには草間の作品が収蔵され、当館の前庭には野外彫刻《幻の華》が鎮座し、毎日多くの来館者の笑顔と共に写真に収まっている。

開催中の草間彌生特集展示で作品の追加展示を行った。《命》と題された、金銀のモザイクスタイルに覆われたオブジェ。15点組の作品であるが、すべてがそろっているのは初めて。初期作品から最新作が一望できる本展は、現在を生き、描き続けるひとりの作家の軌跡をご覧いただく絶好の機会でもある。

物故作家を顕彰することの重要性を忘れるべきではないが、現代を生きる作家たちに目を背ける美術館であってはならないとも思う。

また、各国を代表する美術館で草間の個展が立て続けに開催されている。しかし、この状況は、美術館側が先のメッセージを真摯に受け止めたというよりは、草間が永い闘いの末にもぎ取った成果であるのかもしれない。

また、各国を代表する美術館で草間の個展が立て続けに開催されている。しかし、この状況は、美術館側が先のメッセージを真摯に受け止めたというよりは、草間が永い闘いの末にもぎ取った成果であるのかもしれない。



現代を生きる作家たち

澁田見 彰 (当館学芸員)

バーナード・リーチ展

生誕130年 130th Birth Anniversary Exhibition

日本民藝館所蔵

2016年 4月21日[木] ▶ 6月5日[日]

〈開館時間〉9:00~17:00 (入場は16:30まで)
 〈休館日〉月曜日 ※ただし、5月2日・30日(月)は臨時開館
 〈観覧料〉大人1,000円

大学高校生・70歳以上の松本市民 600円

※20名以上の団体は各100円引き

※中学生以下無料、障害者手帳携帯者とその介助者1名無料

〈優待日〉開館記念日/4月21日[木]と市制施行記念日/5月1日[日]は、上記観覧料が半額となります。

他の割引との併用はできません。

〈リピーター割引〉大人600円、大学高校生・70歳以上の松本市民300円 ※2回目以降の観覧料



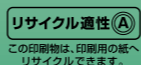
主催/松本市美術館、NHK長野放送局・松本支局、NHKプロモーション、日本民藝館
 共催/一般財団法人松本市芸術文化振興財団、信濃毎日新聞社、長野県民協協会
 本展覧会は、日本民藝館が監修し、鈴木禎宏氏(お茶の水女子大学准教授)より学術協力をいただきました。

クラフトフェア当日(5月28日・29日)は、当館駐車場はシャトルバスの発着所となるため、ご利用いただけません。公共交通機関でのご来館にご協力ください。

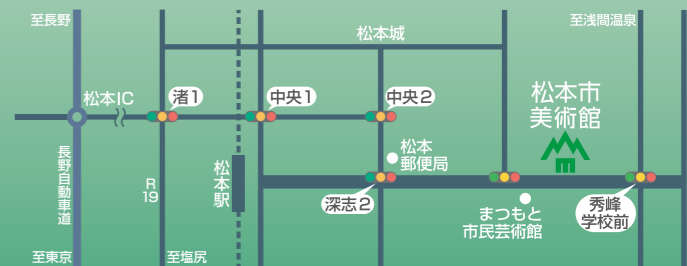
松本市美術館 news
あへとふる
編集・発行



〒390-0811 長野県松本市中央 4-2-22 TEL0263-39-7400 FAX0263-39-3400



◆松本バスターミナルからアルピコ交通バス・横田信大循環線 5分【松本市美術館】下車
 ◆JR松本駅からタウンスニーカー(市内周遊バス)東コース 14分【松本市美術館】下車
 ◆JR松本駅から徒歩 12分 ◆長野自動車道松本インターチェンジから車で 15分



あがたの森公園

プロジェクトスペース 「旅行社みずのさんぽ & 井戸端プリント」オープン!

工芸の五月に期間限定でオープンする「旅行社みずのさんぽ」では、水と工芸とともに街を楽しむお散歩スポットやグッズをご提案しています。「井戸端プリント」の様々なワークショップを体験して、工芸の五月を美術館で楽しんでみませんか?

- 日時 4月30日(土)～5月29日(日)の火・金・土・日・祝日 9時～17時
- 会場 情報交流館ほか



井戸端プリントでできること

- zine の制作 zine キットを使っの zine 制作。
- シルクスクリーン製版 (描画スクリーン)
- 缶バッジ制作 ● 手軽な箔押し加工、蝋引き加工
- 各種印刷 zine 複製やシルク印刷など

井戸端プリントにあるもの

- 機 材: コピー機、ハジメメーカー、アイロン、ミシン
- 画 材: ペンやえんぴつ、様々な紙、マスキングテープ、紐、蠟、箔、シルクスクリーン用品
- その他: 特製 zine キット (手軽に zine を作るためのキット)

zine (ジン) とは...? 語源は「Magazine」(マガジン) の語尾から来る。冊子の形を取る事が多い。絵、写真をまとめるだけでなく個人の考え方や独自の目線、日々の出来事を捉え直したり、旅の記録から見る新たな一面など様々なアウトプットを友人や家族、同じ様な考えを持つ人など個人の流通の範囲で印象的に伝える事のできる自主出版表現媒体のこと。

みずめぐり短と水巡り (ツアー&ワークショップ)

①水音巡り

美術館周辺の湧水や井戸、水路を散策しながら、水の水音を採集する“聴き水”をします。

- 日時 5月1日(日) 9時30分～11時30分
- 料金 300円
- 定員 15名 (要事前申込)



②お土産づくり

美術館周辺の湧水や井戸、水路を散策した後、発見や思い出をモチーフに手ぬぐいを作ります。

- 日時 5月14日(土) 9時30分～12時30分
- 料金 1,000円
- 定員 15名 (要事前申込)

③健脚コース

美術館から足を延ばして女鳥羽川沿いを水巡り。酒蔵や商店などを寄り道しながら散策します。

- 日時 5月22日(日) 9時30分～11時30分
- 料金 300円 (利き酒等希望の方は別途)
- 定員 15名 (要事前申込)

お申込 松本市美術館 TEL.0263-39-7400

建築家と巡る城下町みずのタイムトラベル (ツアー)

①近代編

近代産業や洋館建築、手工業などをテーマに町を巡ります。

- 日時 4月30日(土)、5月7日(土)・21日(土)・28日(土) 9時30分～12時30分
- 料金 無料
- 定員 各回15名 (要事前申込)

②城西編

水や工芸、歴史に着目して城下町松本の西側を巡ります。

- 日時 5月3日(火祝) 9時30分～12時30分
- 料金 300円
- 定員 15名 (要事前申込)

シルクスクリーンで散歩グッズを作ろう! (ワークショップ)

トートバッグや手ぬぐいなどに思い思いにプリントして、散歩グッズを作ります。

- 日時 4月29日(金祝) 9時30分～12時30分
- 料金 1,000円
- 定員 10名 (要事前申込)



勝手に松本〇〇ツアー&ガイド作り (ワークショップ)

町巡りツアーの作り方を学び、マップやガイドブックなどを作ってオリジナルの町巡りツアーを企画してみましょう。

- 日時 5月8日(日)・15日(日)・29日(日) (3回連続) 9時30分～12時30分
- 料金 1,000円
- 定員 10名 (要事前申込)

人物往来

4月の人事異動により、副館長の松田佳子が環境保全課長として、企画運営担当課長補佐として、企画運営担当課長補佐として、外国人が教育政策課長補佐として異動いたしました。代わって4月より教育政策課から清澤秀幸が副館長として、文化財課から竹内靖長が企画運営担当課長補佐として着任いたしました。ミュージアムショップスタッフの永井三香子は博物館へ異動し、代わって阿部結花が着任いたしました。また、学芸員の稲村純子が育児休業等をへて復帰いたしました。なお、学芸員の大西哲理は7月から青年海外協力隊としてジャマイカへ派遣となります。今後とも松本市美術館をよろしく願いたします。



左から 竹内靖長、清澤秀幸、阿部結花

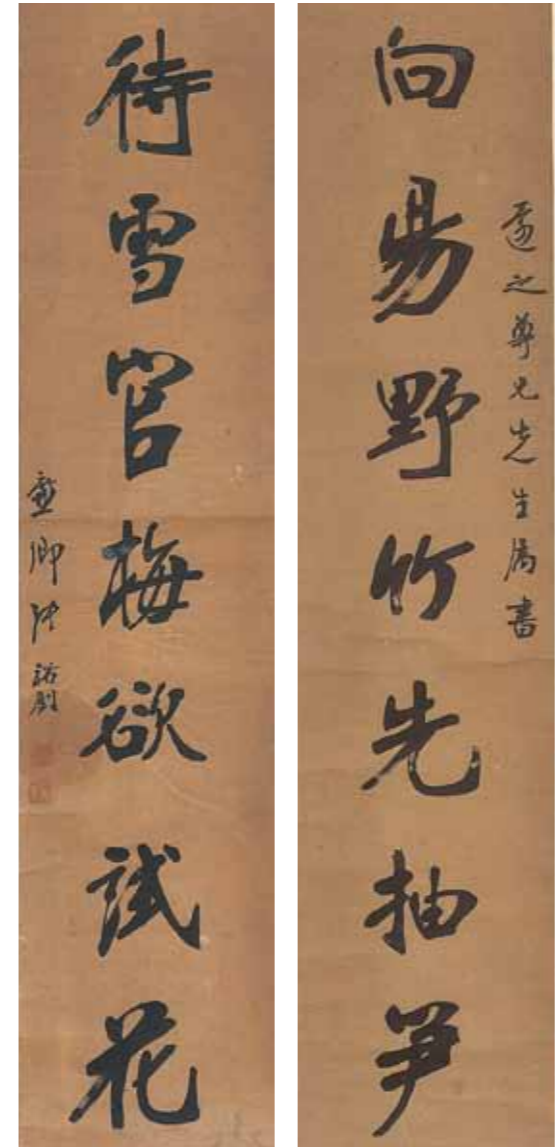


このコーナーでは、当館所蔵の作品を取り上げて紹介します。

七言対聯 張廉卿

当館に記念室がある書家・上條信山の直系の先師・張廉卿。今こそ、中国清時代を代表する書家のひとり数えられるが、それは信山の地道な顕彰活動によるところが大きい。

作品名:「七言対聯」
作者:張廉卿(1823~1894年)
データ:制作年不詳 紙本・墨書
サイズ:各124.5×26.4cm



本作は、上條信山記念展示室「源流を遡る」にて平成28年5月8日(日)まで展示中

信山の師・宮島詠士は、明治20(1887)年、20歳の時に大陸に渡り張廉卿に入門。以後、家人同様に膝元で学び、多数いた弟子の中でただ一人その最期を看取った。
二人が師弟となり96年後、信山は76歳にして念願だった先師出合いの地(河北省保定市)を訪ねる。当時、国交は回復したとはいえ反日感情が残り、また軍の要地として未公開地区に指定されていた場所。外国人の出入りは禁じられていたが、特別に許可されたことだった。この訪問を機に、張廉卿・宮島詠士の国境を越えた師弟の情誼が知られ、展覧会

の開催や信山揮毫による記念碑建立に繋がる。さらに張廉卿生誕の地(湖北省鄂州市)でも顕彰の機運が高まり、廉卿逝世百周年事業が行われた。
張廉卿の書法は、張猛龍碑(北魏)と九成宮醜泉銘(唐・歐陽詢)という楷書の古典を骨格とし、穩健な筆法で悠揚迫らぬ風格を持つ。その二つの古典は、廉卿から詠士へ、詠士から信山へと学ぶべき大切な手本として伝承された。それを基礎に三人三様な作風を打ち立てたが、師弟が紡いだ心情は変わらずに流れている。

大島武(当館学芸員)

身近なアート

お茶缶

中澤 聡 (当館学芸員)



紅茶、ウーロン茶、ジャスミン茶に緑茶……。お茶を飲むことが好きで、色々な茶葉を集めている。香りや味、お湯を注いだときの茶葉の色の美しさなど、茶葉を選ぶときの理由はひとそれぞれだろう。わたしにとって、いつも購入の決め手となるのはお茶缶のデザイン。シンプルなものから、細かな模様が美しいもの、異国情緒溢れるものまで。同じ名前の茶葉が入っていても缶の色や、質感、フォルムによって見え方は色々。「この茶葉はまだ家に残っていたなあ……」そう分かっていながらも、気に入ったものを見つけてしまえば、ついついお茶缶を片手にレジへと吸い込まれていく。